

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月10日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4271402309
法人名	(医) NANOグループ
事業所名	グループホーム 菜の花
所在地	〒859-2412 長崎県南島原市南有馬町乙376 (電話) 0957-85-4488

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年2月27日	評価確定日	平成20年3月25日

## 【情報提供票より】(H20年 1月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	17年	8月	1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	16人	常勤	13人	非常勤 3人、常勤換算 8人

### (2) 建物概要

建物構造	木造り		
	1階建ての	階 ~	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	実費徴収
敷金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		700 円

### (4) 利用者の概要(1月 1日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	2名	要介護2	5名		
要介護3	6名	要介護4	1名		
要介護5	4名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.6歳	最低	68歳	最高	101歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	(医) NANOグループ菜の花クリニック
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地に立地し、平屋建てのホームは地域に融合している。平成13年に母体の病院の2階に開設後、17年に2ユニットとして現在の場所に移転している。グループホームとしての長い年月を経ており、医療面や職員のスキルアップに向けて充実を図っている。特に接遇マナーには重点を置き、言葉掛けには細心の注意を払っている。又、地域の人との触れ合いを大切に、毎年ホームの駐車場でバーベキュー大会を開催し、関連法人の全職員やご近所の人々が参加し、恒例のお楽しみ会になっている。同様に原城マラソンには院長を中心に、職員の多くが参加し、入居者は応援に訪れ、行動力を感じる事ができる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善項目を真摯に受け止め、カンファレンスで話し合いが出来る事から改善に向け取り組んでいるが、改善計画シートの作成はなく、改善に向けた取り組みは十分とは言えない。改善に向けた取り組みを詳細に決め、達成状況を評価しながら、質の向上に努められる事に期待したい。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価表を職員全員に配布し、それぞれ日頃の取組状況を記述後、話し合いをし、管理者が集約し実施状況を記述している。項目を把握する事で、ケアの統一や見直しを行っている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月毎に地域の代表・地域包括支援センターの担当者・家族の代表・管理者・計画作成担当者・職員の参加により開催している。AEDの勉強会等地域からの希望や情報の提供があり、コミュニケーションが取れるようになり、成果が上がっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	玄関に意見箱を設置し、常に傾聴の姿勢を伝え、今までに、薬・食事・利用料に関する相談があり、苦情相談受付記録・処理記録に記述し残している。入居が長い方が多く、ホームに「お任せ」状態であり、一部の家族のみの意見に留まっている。毎月の便りに入居者個別の様子を載せ、ホームに関心を持つ取り組みをする事で、忌憚のない意見や相談が、多くの家族から聞ける関係の確立に期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	ホームは住宅地の一画に立地しており、散歩等で日頃から顔馴染みの関係である。毎年開催するバーベキュー大会には近所の人々の参加があり、地域の楽しみ事の恒例行事になっている。又、幼稚園児の訪問や原城マラソン・商工会行事・原城一揆祭り等へ職員の参加や応援で地域の行事に関わりを持っている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「一人一人の意思及び人格を尊重し自由に安全に生活できる」と掲げ、住み慣れた地域で、利用者を尊重しながら押し付けない支援を実践している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関や食堂に掲示し、できるだけ見ることでの確認を行い、常に入居者を主体としたケアを目指し、職員全員が理解しながら、理念の実践に向け日々努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは住宅地の一角にあり、散歩等で日頃から顔馴染みの関係である。毎年開催するパーベキュー大会にはご近所の人々の参加があり、恒例に成っている。又、幼稚園児の訪問や原城マラソン・商工会行事・原城一揆祭り等へ職員の参加や応援で地域の行事に関わりを持っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表を職員全員に配布し、記述後相談しながら、管理者が集約し実施状況を記述している。前回の改善項目に対する改善計画シートの作成はなく、カンファレンスで相談し、出来る事から取り組んでいるが、計画的な実施に至っていない。		評価を真摯に受け止め、全員で話し合いを実施し、出来る事から取り組み改善されているが、改善計画シートを作成し、計画的に達成状況を評価しながら実施される事に期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に地域の代表・地域包括支援センターの担当者・家族の代表・管理者・計画作成担当者・職員の参加により開催している。AEDの勉強会等地域からの希望や情報の提供があり、コミュニケーションが取れ、成果が上がっている。		

グループホーム 菜の花

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の担当者とは顔馴染みであり、必要時に情報交換を実施している。嘗て入居に当たってシルバー人材センターを利用(独居の方の自宅の掃除)したことがあり、必要に応じて利用に繋げている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月便りを発行し、正月はホームから年賀状(書ける入居者は一筆書き込み)の送付や、状態の変化を逐一報告している。金銭管理は出納帳のコピーと領収書を一緒に送付し、訪問時に了解の記名捺印を得て、出納を明確にしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、常に傾聴の姿勢を伝え、今までに、薬・食事・利用料に関する相談があり、苦情・相談受付記録・処理記録に記述し残している。しかし、入居が長い方が多くホームに「お任せ」状態であり、一部の家族のみの意見に留まっている。		訪問時に話しかけ努力が窺えるが、入居者の個別の様子の記入や、介護保険や利用できる制度等、家族が学習できる情報や、これまでの相談・苦情の公表等を織り込んだ便りの発行により、多くの家族が積極的にホームに関心を持ち、忌憚のない意見や相談が聞ける関係の確立が期待される。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動は少なく、職員の離職もあまりない。職員間はコミュニケーションが良く、親睦を行いストレスを溜めない配慮をしている。新人は入居者に紹介し馴染める様に注意を払い取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の向上は事業所の方針であり、内部では関連法人内の感染対策委員・医療事故防止委員・褥瘡対策委員に所属し学習している。外部研修は掲示板に明示して希望者は積極的に受講し、カンファレンスで報告することで全職員で共有を図り、スキルアップに取り組んでいる。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームケア研究会に所属し、研修・忘年会・スポーツ大会等に参加し、顔馴染みであり情報交換を実施している。又、個人的に親しくしているホームを訪問し、優れている点を吸収し運営に反映している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居希望者は母体の病院から入居に至るケースが多いが、時には自宅の時があり、自宅訪問を実施し、様々な情報を聞き、安心出来る状況に配慮している。又、入居後も状況に応じて家族の協力をお願いしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者は年長者であり、昔の事やしきたり・料理の事・人との接し方・方言・高齢者の言葉等を生活の中で経験を活かした事を教わり、喜怒哀楽を共にしながら生活を楽しんでいる。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>基本情報・ADL・身体状況の変化に応じて記述し、生活歴の把握に努めている。又、日々の会話で希望や意向を聞き、理解をして、その人の立場に立って支援している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族の主訴を踏まえ、アセスメントを実施し、職員全員が参加した担当者会議を開催している。又、サービス内容を詳細に決めた計画書を作成し、家族に了解の記名捺印を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は長期目標を1～2年・短期目標を1年～6ヶ月に設定している。モニタリングを3ヶ月毎に行い、カンファレンス会議により計画の見直しを実施している。又、状態の変化時は見直しを行っているが、期間設定が長期に亘っている。</p>		<p>長期・短期の目標期間が長い期間であり、介護計画と実際のケアを考慮すると最長でも、長期を6ヶ月・短期を3ヶ月に設定し、モニタリング表を長期で変化が見れる書式に工夫して、モニタリングを毎月実施し、現状に即した見直しの実施ができる期間設定が期待される。</p>

グループホーム 菜の花

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の状況に合わせ、医療連携・重度化に伴う終末期の支援・関連法人との交流・往診・家族の宿泊・職員によるリハビリ体操等、多機能性を活かした柔軟な支援を実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が病院であり、必要に応じて受診・往診・看護師の派遣等、適切な医療支援が来ている。又、入居者の希望や必要に応じて適切な医療機関への受診や指導を仰いでいる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの実施があり、看取りに関する指針と同時に、職員間での話し合いを行っている。医療面が重度化になると家族と相談し希望に沿って支援している。職員はエンゼルケアの勉強会を実施し、終末期のお手伝いに努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の漏洩に配慮し職員と誓約書を交わしている。常に入居者を尊厳し、オムツ交換・更衣は居室や見えないように配慮して行い、言葉使いは「目上の人」に重点を置いている。NANOグループで接遇マナー講習(年2～3回)を講師を招いて開催し、職員の言動に注意を払っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のしたい事にできるだけ拒否をしないように心がけ、意思の尊重に配慮している。行きつけの美容室や墓参り等家族の協力を得ながら支援している。		

グループホーム 菜の花

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は職員がする事が多いが、皮むき等の準備のお手伝い・下膳・テーブル拭き等、出来る範囲で一緒にしている。時にはホームの畑の作物が食卓を飾る事がある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴可能であるが、週2～3回の利用である。一人で入浴を楽しんだり、拒否者は少なく清潔保持が出来ており、状況により清拭になる事もある。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カーテン開け・新聞取り・箸並べ・洗濯物たたみ・ゴミ箱織り・汚物用新聞紙織り・花札・トランプ・パズル・三味線・カラオケ・習字等、趣味や生活の中で出来る事をしている。室内で過ごす事が多く、身体面に配慮しながら変化に富んだ生活支援を目指している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩をする事はあるが、遠出や買い物は、施設長に許可を得て外出している。季節や安全面に配慮し、出来るだけ外出を試みているが、日常的には至っていない。		ホームという決められた空間での生活に配慮し、外気浴や四季折々の景色に触れる事や、ストレス解消を視野に入れ外出を日常的にする為にも、柔軟な外出支援ができる体制の見直しが期待される。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない生活を大切にし、見守りや声掛けによる職員の努力で支援している。又、行方不明者の対応マニュアルを作成し、非常時を想定して入居者の顔写真を準備している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火・避難訓練は消防署の立会いにより、自治会参加で実施している。消防訓練計画や教育訓練計画に基づき実施している。又、台風は土地柄、詳細に訓練しているが、地震に関しては訓練にまで至っておらず、備蓄状況にも不安がある。		何時如何なるときに発生するか分からない自然災害(地震・水害を含む)を想定しての訓練の実施や、それに伴う備蓄・持ち出し品を今一度チェックし、非常時に向け万全の体制で取り組むことが出来る準備が期待される。

グループホーム 菜の花

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は関連法人において一括購入をしており、食材費を抑えている。栄養士によるバランスの良い食事を提供し、状況(カロリーや塩分控えめ・ミキサー・刻み・極刻み・お粥等)にあわせて提供している。水分量は必要に応じて提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング兼食堂は広く、畳と床の部分があり、ゆったりと過ごせている。明り取りがあり全体的に明るく、住宅地の一画に立地している事もあり、騒音を感じる事はない。又、加湿器を使用し空調にも配慮している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームで最低限の生活用品(ベットや筆筒)を設置し、個人差はあるが、入居者が生活をしていく上で必要な品(コンテナ・仏壇・鏡・写真・小物等)を持ち込み、入居者の個性が尊重された生活の場となっている。		